

日本企業の国際化と企業パフォーマンスの実証分析

(Empirical studies on the internationalization and performance of Japanese firms)

伊藤恵子（千葉大学）

要旨

企業活動の国際化と企業パフォーマンスとは正の関係にあることが、これまでの数多く学術研究で示されてきた。日本企業のデータを使った実証研究でも、その関係は確認されており、国際化している企業は非国際化企業よりもさまざまな指標でみてパフォーマンスが良い。一方、マクロ・レベルでも企業レベルでも、日本の輸出入比率や海外生産比率などは高まっており、多くの日本企業はこの数十年間に確実に国際化を進めてきた。では、なぜ、国際化の進展が国内経済の成長に結びついてこなかったのか。

本稿では、国際化とイノベーションとの関係を中心に、これまでの国内外の研究から得られた知見を整理する。より具体的には、輸出や海外進出は、生産品目の高度化やイノベーション効率性の向上を通じて、企業パフォーマンスを向上させるといった分析結果を提示する。しかし、企業レベルの効率性向上は、必ずしも日本国内での活動規模の拡大に十分結びついてきたとは言えない。結果的に、世界貿易における日本のプレゼンスは低下した。さらに本稿では、世界貿易における日本のプレゼンス低下と日本の技術力の相対的な低下との間になんらかの因果関係が確認できるのか、特許データ等も利用した分析結果に基づいて考察し、太く多様な対外取引の重要性について論じる。